

---

# 神様

優宮 ♪

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

神様

### 【Nコード】

N2368V

### 【作者名】

優宮  
♪

### 【あらすじ】

早紀と銀士は神様なんか信じなかった。

・アオゾラナイト。の2人が演じてくれました（笑）

この世の神様は全員ウソツキだ！と子供ながらに思っていた。

「早紀〴〵お客様よ？」

「嫌だ、丁寧にお返しして。」

冷たい声で早紀は言った。

早紀は生まれつき病気だった、絶対に直らない不治の病だった。

「銀士・・・」

「俺は帰らねーぞ？」

銀士は黒髪の少し長めの髪の背の高い男の子。

「皆、心配してた。またか？あれ。」

「銀士は知ってるからいいよね・・・こんな体の僕の側にいるなんて皆に不気味がられてない？」

「まあな、でも、お前とは腐れ縁だしな！それに・・・」

俺の恋人だろう？」

銀士は笑っていった。

早紀の右隣の家が銀士の家だ。いつも笑っていて、僕を守ってくれる・・・

「もう、こんな時間だ・・・」

そついうと窓に行く、と銀士の窓が開いた。

「また来るな・・・早紀。」

それを聞いたのが最後だった。

早紀は耳が聞こえなくなった。

早紀は目が見えなくなった。

そして、彼女は、静かに息を引き取った。

14歳の彼女に与えたのは苦痛だった。

最後の一言はこれだった。

「神様なんて、知らない。神様はウソツキで、神様なんかこの世にいない。」

神様、この世にいないのですか？  
いたら、早紀をかえしてください。  
これが俺、銀士の願いです。

f i n

（後書き）

「ってか銀士うざい」

「うるさい！！ってかあいつのせいだろ！」

といわれていますよね…（汗）はあ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2368v/>

---

神様

2011年11月15日02時16分発行